

日三月三

常警每日新聞

定額一圓五角 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 廣告料五圓 印刷費別計
 發行所 常警每日新聞社
 電話 六二〇〇
 印刷所 常警每日新聞社
 電話 六二〇〇

『おまけ』の心理

一讀者

(一)

世道人心頹廢とはよく世間で語られることだが、その語る世間が頹廢してゐるのであるから、責めて居るのやら自白してゐるのやら分らない。勿論世の中には真面目の人もある。責任の感の強い人もある。全く見棄てたものでないことは明白だし、見棄てゝも居られないわけだが、昨今の風潮を見れば真面目な責任感の強い人が少いのは同感である。政治家は明るく、強く正しくなどいふ、これは故濱口民政黨總裁の言などいふが、民政黨がその通りだとも云へないし、政友會が正しく明るくないとも云へない。一体今日の世間そのものが正しく明るいといへない。不正直な、非合法的なことがあるのは見ても分るけれども、いつの世の中でも悪いことのあるのは濱の真砂の譬にもあることだが、それにしても非常的といふ國難を感じてゐる現代はいろいろの意味で悪いことの多いのは云ふまでもない。この現代人の心理状態を解剖して、その性質を明かにすることは、國民心

理の問題として且つ現代心理の問題として、學術的にも興味あることだが、容易の事柄ではない。今その中で私の思ひついて語らうとするところは、おまけの心理といふことである。

おまけの心理とは昨今に

ノート

お茶道具を運ぶ時 お盆の上には右に急須、左に茶碗 煙草盆は客の方から見て 灰吹は右、火入は左。感限つた心理現象ではないがこの數年來殊に多いことを見逃すことは出来ない。以前にはよく汽車や汽船の中でおまけ主義の商賣が行はれた、一冊の本を出して、これは十錢でござる。一冊

二明日の献立二
 【朝】みそ汁・小かぶ
 【晝】雑多煮・牛肉・こん
 やく・ごぼう 人
 參 里芋
 【晚】からしあへーむきみ 蕎麥

だけでも十分の値打はあるが、今日は特別の日であるのでおまけに外の一冊を添へます、否、二冊を添へます、數へ來つて五冊六冊十冊と添へることがある。この巧妙の賣り口振りに氣をとられて安いことだと一人

が買へば我れ劣らじと外ものが模倣作用で買つて行く、そしてその商賣人はしつたか儲ける。これはおまけの心理應用の商賣であるところが今日のおまけの心理作用が大雑誌社、大新聞社、大デパートメントストアトその他到るところに行はれてゐる。この現象を如何に見るか、この心理を何んと見るか、こゝに表象された現代人の處世観は何んと見らるゝか、この觀察は鋭く批判すべき事柄だと思ふ。

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

磐城 共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙 郎
 自宅(電話一二四番)

內科	醫學博士 石山謙 郎
小兒科	醫學博士 佐久間 謙
外科	醫學博士 桂 重
喉科	醫學士 有馬 二
皮膚科	醫學士 五十嵐 雄
産婦人科	醫學士 佐久間 謙
X光線科	醫學博士 石山 謙
衛生試驗所	技師 藤 慶
藥局	技師 高 山
	藥劑士 吉 本
	技師 孝 利
	技師 平 雄

◎診療時刻午前八時より午後五時迄
 (但急患は此の限りに非ず)

平町 磐城共濟會 電話六四一番

久金屋商店

磐城セメント會社特約店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

- 良品廉賣に勝る商略なし
- 確實敏捷は久の生命なり

毎度御ひいき 有難ふ御座ります

うなぎの御用命は うなぎ 奴

平町田町(電話二二番) ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

十日

体温検査日です
 お宅の体温計は?
 正確な体温計を御利用下さい
 毎月十日の検査日を御利用下さい
 計量器 指定販賣所
西村屋藥局
 電話 三番

トモテモ面白

具玩ナ議思不

大人も子供も白熱的大歓迎
ヨロヨロが來ました
 世界的流行玩具一ケ金五錢
 平驛前 いづみや玩具店

旭硝子株式會社製品

赤菱印 **板ガラス**
 菓 子 壘
 硝 子 食 器
 其他 各種

製造賣販

松崎硝子製作所
 平町新川町(電話一四二番)
 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

平新川町十九

産婦人科 **木村病院**
 電話一六四番

院長 木村寅次郎

婦人科 醫學士 内 木 宗 八

整形外科 器泌尿科

記念品付の 更生貯金を

平庶民金庫が発表 割増金もある

信用組合平庶民金庫では来る六日の産業組合記念日に際し組合積立金の五ヶ年計書として月掛け五年据置更生貯金の開始を發表する由であるが同計書に依ると三月末日迄の貯金加入者には左記の如き記念品を呈上

- △一千圓以上手提金庫
- △五百圓以上同小形金庫

△五百圓以下記念品とする由であり且つ毎月滞滞なく拂込んだ貯金者には満期の時に一千圓に付き利息以外に左の割増金を附する事になつて居る等極めて此際の際貯金者には有利な奨励方法が設けられてある

- 二年間五圓 三年間十圓
- 五年間廿圓

匡救事業に

材料を寄附

石城郡小名濱町丹清治氏は今回同町の匡救事業として工費千五百圓にて着手する古港地内道路工事に材料品五百餘圓分を寄附しました勿來町長赤津庄平氏も同町匡救道路工事に七百圓分の材料品を寄附した

堅農講習

修得者

既報来る廿一日午前十時より舉行される石城郡農會主催中堅農民講習會修了式に於いて修得證を授與されるのは左記七十七名である

澤田八來(山田) 坂本敏

- 雄(錦) 齋藤武 荒川安(勿來) 金子萬光(上遠野) 小澤定雄 面川勘一 永山忠之 折笠松治 榎村雄 田茂謙(入遠野) 榎村雄 蛭田喜一(川部) 志賀清 永山恭 木村敏雄 江尻久平(飯野) 酒井一郎 片寄傳七 鹽正勉 鈴木勇(夏井) 鈴木宗盛 大谷仁榮 鈴木富太郎(高久) 吉田勇 伊藤宗治 作山豊七(江名) 鈴木良造 箱崎安治 長瀬博文 新妻安德(鹿島) 柳内保 柳内裕(小名濱) 箱崎孝一 猪狩守(磐崎) 高原裕平 小久富司 坂本進 坂本充文 志尾崎徳衛 松崎

- 美松 鎌倉庄平 西山忠守 鈴木政保 船生甚作 (赤井) 小笹一雄 高萩忠衛 佐川勇太郎 中野一 (神谷) 新妻秀一 江尻英勝 渡邊重茂 渡邊福松 飯島政雄(草野) 遠藤重雄 多島一(四倉) 西山俊一 佐藤榮 菅波長吉 高木利雄(大野) 草野一郎 大

徴兵検査の

郡下期間が決定

昭和八年度に於ける石城郡下各町村壯丁の検査は八月十九日より九月二日に亘つて平町第一小學校講堂にて執行される事に決定した

東北帝大の

看護婦試験

石城郡下に於ける東北帝大醫學部の看護婦採用試験は来る九日午前八時より平町役場會議室にて行はれるが郡下の受験者は十八名である

方面委員

代表決定

郡下の五氏

石城郡下各町村の方面委員中本月廿八日東京市に開催される全國方面委員會に本郡代表者の資格を以つて参加するのは左記五名と決定した

- 山崎清三 長瀬末治 薄葉巳之松 猪狩庄平 高田清一郎

小名濱漁業組合が

製氷場の設備計画

石城郡小名濱漁業組合では今回工費一萬四千四百七十圓を以つて漁業用製氷場の設備を施す事となり去る一日縣を經て農林省に國庫補助四割の支給方を申請したが漁業組合で製氷場を設置するのは縣(一)初の試みである

修正された

町費補助

平町八年度の町費補助中修正されたのは左記の通りである

- (町農會)二百圓を百六十圓に(建具指物組合)百圓

を八十圓に(染物業組合)同上(佛敎慈善會)否決(火防組合)二百七十圓を四百五圓に各修正

平町の

金庫事務

平町の金庫事務取扱ひ銀行は昨日の町會に於て青沼町長の提案通り満場一致七十銀行平支店と決定四月より行員が役場に出張して事務を實施する事になつた

助役の勤續

石城郡五十六年間 渡邊村助役吉田光信氏は去る一日滿期退職したが勤續年限五十六年間と云ふ長期に亘り全國でも稀らしいといはれて居る

酒造税完納

期日までに二月未納期の平稅務署の酒造税十三萬一千九百十四圓四十五錢は全部期日迄に納入済となつた

平町人事

- 回出 生
- △立町五一 草野長藏氏五男友治
- △白銀町三九 安戸武雄氏五男忠男
- 回婚 姻
- △一丁目七 當時東京市目黒區駒場町七三九和由衛氏(三)東京市目黒

區駒場町七七四山内千代(三二) 回死 亡

△梅香町百四 松崎長吉(五八)

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町田町 電話五一三番

質流れ衣裳類 一式
御仕立御祝儀物

三丁目通り
旭屋衣裳店
電話四二五番

外科 X光線科
性病科
外科

入院隨意

平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番

鹽豚
肉蒲鉾

田町 三三三三屋

上田外科醫院
平町南町
電話二二九番

寝入りばなを襲った 今曉の地しん

震源地は金華山沖

安否を氣つかふ不安な一夜

今曉二時半頃突如平地方に襲來した地震は近來稀有の強震として家鳴震動甚だしく各戸共に寝入りばなの安らかな夢を破られ驚愕の餘り寝巻き姿で戸外に飛び出す人達も多かつたとして漸時震動の鎮まると共に何人の腦裡にも當地以外に被害を蒙つた地方があるのではなからうかと熱河の戰鬪益々猛烈ならんとする國家非常時の折柄であるだけに憂慮の念を深めて不安な一夜を過したが本社より小名濱測候所に照會した回答に依るば左記の如くである

四時間半に

亘つて震動繼續

ツナミ被害甚大

小名濱測候所の談

發震時刻は午前二時卅一分五十一秒半でありまして震度は強震の弱に位し其の性質は中性と測定しました、震幅は當測候所の

地震計が三ミリの迄

を量るのであり勿論今度のは夫れ以上に大きかつた爲めにどの程度に達するかは不明ですが當地方としては關東大震災の後大正十三年に一度此位へ大きかつたのがあつただけで今度のはその時以來の記録破りです、

肥が少しばかり流出しました

鰯煮干全部流失

築港護岸が崩壊

小名濱海岸の被害

石城郡小名濱海岸では昨夜三時頃より海嘯状態の激浪が押し寄せ同地海岸の鰯煮干五百餘圓分は全部流失してつた尙同町の匡救工事と

電柱に青い火花

一時は眞ツ暗闇の平町

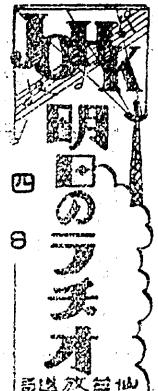
平町には幸い被害らしいものはなかつたが東部電力會社の市内配電線が切斷したので平町の一部及び平窪村に亘つて停電し一時眞暗闇と化し才樋小路方面の電柱は青い火花を散らして物凄

激浪で

漁船が

淺瀬に乗上ぐ

石城郡江名町豊田廣太郎所有船幸運丸同く吉原龜吉所



報豫氣天

今晩は北西の風晴曇半し明日は北の風大體晴れ海上荒れ模様

氣象通報 番組豫告

明日の部

前九、一〇料理献立「牡蠣のカレー和へ」朝倉長吉

前二、三〇家庭講座「風景と見川書」乙丸ます

後八、〇〇獨唱「獨唱マナー」伴奏 ケートアイハンセン

後九、三〇各作物語「雁」徳川夢聲 福田宗吉

後九、三〇滿州より

硝子戸に

頭を突込む

石城郡内郷村大字御厩一上宿十五居住古物商瀬藤源(六)は昨日午後五時頃泥酔して驛前遠藤パン方のガ

爆音に驚いた

馬が暴れて

馬車挽轉倒負傷

石城郡豊間村字薄磯居住馬車挽業藤井計三(三)は一日午後六時頃空馬車を挽いて平町よりの歸途飯野村小學

後八、〇〇長唄「里廻四季」杆屋勘榮外

後九、〇〇清元「雛の宵」清元美都枝

後八、〇〇義大夫「壺坂靈驗記」竹本綾千代 三味線竹本重八

後六、〇〇子供の時間 童話「おひな祭」小笠原義雄

後七、三〇講演「北陸の萬葉の古蹟に就て」第四高等學校教授鴻巣盛廣

後五、三五少年少女職業指導講座「職業と天性」高峰博

後六、〇〇子供の時間 童話「白菊童話園」ピアノ 伴奏 星出敏一

後七、三〇講演「盤景と見川書」乙丸ます

後八、〇〇獨唱「獨唱マナー」伴奏 ケートアイハンセン

後九、三〇各作物語「雁」徳川夢聲 福田宗吉

藤田校が

晝夜二一回

選科を特設

平町田町藤田女學校にては四月の新學期から選科を新設し家庭や職業等の都合で晝夜の二部教授とする學力

平職業紹介所報告

回人を求める方

賣子 四十歳 尋卒 賣上の二割給(双葉郡某)

農夫 三十五才 年七十圓位(高久村某)

雜夫 三十才 尋卒 給料面談(江名町某)

女中 二十才 尋卒 六圓(好間村某)

回職を求める方

事務員 三十三才 三田學卒 給料面談(平町某)

事務員 二十一才 簿記學校卒 給料面談(鹿島村某)

商店配達 二十才 高一修 給料面談(内郷村某)

女中 四十七才 無學 給料面談(平町某)

コック 二十九才 尋卒 給料面談(田村郡某)

豪傑

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫
佐々木 見山

第二百八十一席

家敷に伺ふそば賣
松崎采女は夜そば賣りの
近づくを待ち

松「コレそば屋ちよつと待
て」

○「へおそばはしつぽこ
でござんすか、南蠻でござ
んすか」

松「イヤ待て、その行
燈の所へ顔を出して見せて
くれ」

○「へエ——旦那、亂暴な
事をしてはいけません、わ
たくしは他人に怨みを受け
るやうな悪い事をした覚え
はございません、お前さん
は親の敵を捜してゐますね
その敵がそば屋になつてゐ
ると聞いて此處に出張りま
したか、どうぞよく面を御
覽下さい、誠にお粗末なも
ので御目にかけるやうな顔
ではございませんが、さつ
と御目にかけます。親の敵
の其の證據は類の疵などと
よく云ひますが、わたくし
は疵はございませんよ」

行燈の前へヌツと顔を突
き出した、年頃は六十四五
髯がモシヤ／＼生へて鼻の
尖が赤く左の眉尻に瘤があ
る

松「ウンおまへだ、昨夜か
ら尋ねて居つた、瘤に見覺

えがある」

○「どういふ御用でござい
ます」

松「一昨夜主人と與に、此
處でおまへの蕎麥を食べた
ナ」

○「へエお

の時のお侍さまでございま
すか」

松「今度主人が客をいたす
就て夜そば賣の扮装にてこ
の人々を饗應いたしたいと
申し居る、さうするにはそ
ばの拵へ方を知らねばなら
ぬ」

○「へエ、成る程」



松「そこで明日その荷を擔
いだま、邸に來てくれ、通
用にかつて松崎采女の許
まで通ふと申せば答められ
る事な」

○「へエ長まりました、然
しお邸は何方さまでござい
ます」

松「この向ふ邸だ」

○「向ふ邸は有馬さまでご
ざいます」

松「左様俺は有馬玄蕃頭の
家來だ」

○「それでは一昨日の晩此
處でそばを召上つた方は有
馬様でこ

松「正午過ぎに出て來い、
とこでお前は何れに居つ
て名は何といふ」

○「わたくしは綱阪の下で
豆腐屋八兵衛の店を借りて
居ます、長と申す者でござ
います」

松「瘤長とは面白い名だ」

○「へエ、本名は長兵衛で
ございませうが、コブがあり
ますから仲間では瘤長と申
して居ります」

松「さうか、デハ明日邸へ
出てくれ、そばも持つて參
れ、又それだけの骨折は遣
はす」

○「承知いたしました、殿
様よろしく申しておくん
なさいませ」

松崎采女は邸に戻り翌日
有馬侯に此の事を告げた。
こちらは夜そば賣り、明日
の正午過ぎに荷をかついで
邸に出て來たが通用門にか
かり

○「お頼み申します、わた
くしは綱阪に居る長兵衛と
申す者でございませう、松崎
采女さまお部屋まで通りま
す」

○「ア、貴様か夜そば賣り
は、夜見ると目立たぬが晝
間見るときたない荷だな、
眞黒になつて居るな」

長「へエ、長い間使つて居
りますから自然とさびが付
きます」

な事を申して叶かん」

長「松崎さまの御住ま居は
何處でございませう」

○「その長家について左に
切れて眞直に參ると馬場が
ある、その馬場を前にした
お長屋に居る、角から三軒
目だ、その手前に悪い犬が
居るから氣をつけろ」

長「へエ、有難うございま
す、廣いやしきだもア、一
人でこんなやしきを構へて
ゐるから出む所が無くなつ
てまごつく者もある、あ、
此處が馬場だ、此處にある
長家か、これは皆店賃なし
で住んでゐる、其の上食物
には不自由せず、これでは
主人を大事にするも當然、
御免下さいませ、そば屋で
ございませう、夜鷹そばが參
りました、采女さまに宜し
くお取次ぎ下さいませ」

と云つた時に出て來たは
松崎

松「オー長兵衛か、さあさ
あこれへ參れ、暫時休息い
たせ、貴様の來た事を殿様
に申上る」

長「へエよろしくお願ひ申
上げます」

一册の代金で
御希望通りな

五册の雑誌が
自由に讀める

川崎巡回文庫

申込次第(規則書進呈)

電六三〇番

電六三〇番

電六三〇番

電六三〇番

父政久儀永々病氣之處養生不
相叶三月一日午後五時死去致
候間此段御通知申上候

追而來ル四日午後一時自宅出棺長橋町性源
寺ニ於テ佛式ニ依リ埋葬可仕候

昭和八年三月二日

男 吉田 鎮政
男 清水 廣政
親戚 清水 爲政
總代

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重子
女醫 川井安子

電話一八一番

御料理 八千代

平町田町 電話三七五番